

# つくばで輝く研究者

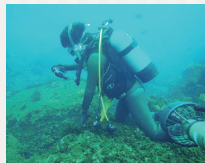
WADA Shigeki 和田 茂樹 さん

筑波大学 下田臨海実験センター 助教



香川県東かがわ市出身。1999年筑波大学第二学群生物学類入学。03年同大学生命環境科学研究科入学。08年博士(理学)取得。愛媛大学沿岸環境科学研究センターグローバルCOE研究員を経て10年から現職。海洋酸性化に対する生態系の応答、マリンスノーの動態などの研究のほか、後進の指導にも従事。

## 《海の世界や生態系を探究》



式根島で高CO2海域での生物相調査

1933年に設立された東京文理科大学附属臨海実験所、現筑波大学下田臨海実験センター。筑波大学をはじめとした数多くの大学の臨海実験の場として、年間7000人を超える学生や研究者が利用するこの研究拠点で2010年から「和田研究室」を構える。海の世界や生態系に関する研究を続けている中、14年に伊豆諸島・式根島付近で海底から二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が吹き出している「CO<sub>2</sub>シープ」を共同研究者と共に発見。世界でも4例目となる快挙で、人類が放出するCO<sub>2</sub>の海の溶け込みに起因する海洋酸性化の研究が大きく進展した。「海洋酸性化に伴う生態系の変化が懸念されています。伊豆諸

## 国際的なネットワークで海洋酸性化の研究を推進

島の海はダイビングスポットにもなっているようにカラフルで美しい海中風景が広がっていますが、100年後の未来とも言うえるCO<sub>2</sub>シープ周辺では、まるで「焼け野原」のような単調な世界になっています。式根島のCO<sub>2</sub>シープ発見でイタリア、フランス、日本からなる「CONA (International CO<sub>2</sub> & Natural Analogues Network)」が発定。各国の研究者が協力しながらSDGsの目標のひとつでもある「海洋酸性化の影響を最小限に押さえて対処する」ための国際的な研究が進められている。

《幼稚園から「夢は研究者」

香川県出身。海の近くで生まれ育ち、趣味の釣りなどを通して海の生き物に親しんだ。凝り性で、興味を持ったことに没頭することが多かったという幼少期から、夢は研究者。地元の高校に進学し、研究者への道を模索する中で「生物に関する研究分野が多岐にわたっている」筑波大学

## つくばの印象

に進学した。愛媛大学の研究員を経て筑波大学に戻り、下田で妻と2人の子息と暮らしながら自身の研究と後進の指導に多忙な日々を送っている。



家族と実家の近くの浜で磯遊び

大学院修了まで9年間を過ごしたつくば市は「生活は便利なのに程よく田舎なところが過ごしやすい。また、さまざまな研究所が集積しているつくばは他分野との連携が取りやすいことが利点。現在、つくばから離れて勤務しているからこそ感じる魅力です」。卒業間際につくばエクスプレス(TX)が開通し、周辺が一変したことが印象深かったと振り返る。コロナ禍以前は月に2度ほど筑波大に出張しており「始発で下田を出れば筑波大学の2限の授業に間に合います。卒業してからTXの恩恵を受けています」。